

SSH通信

～第Ⅲ期 新しい挑戦を楽しもう！～

No.3 発行 2025.12.2

台中市・私立明道高校と交流 2025.10.23-24

10月23日・24日の2日間、台湾台中市の私立明道高校から理数コース77名の生徒達と4名の先生方を迎え、本校1学年の生徒と交流活動を行いました。

23日は歓迎セレモニーの後、1学年の各クラスの授業に参加し、三高の各教科の授業を体験してもらいました。また、SDGsをテーマにグループごと英語でディスカッションを行い、日本と台湾の高校生の共同プロジェクトのアイディアを出し合いました。午後は各班分かれ、仙台市内を三高生がアテンド。仙台の食や文化、買い物を楽しんでもらい、交流を深めました。



時習の森でPlant Hunt!

24日は本校理数科の生徒とクイズを通してお互いの国の自然環境について学んだり、仙台三高校校林「時習の森」で実際に自然に触れながら活動したり、「自然」や「環境」を通して、相互理解を深める半日となりました。最後に、宮城県農業高校から提供いただいた「玉夢桜」を植樹し、両校の友好がますます深まる事を祈念しました。3月には本校1,2年生19名が明道高校を訪問する予定です。

SDGsをテーマにディスカッション



1日目の交流を通して

1年鈴木涉吾(台原中)

初めて私たちのグループに参加する明道高校の生徒に会ったとき、緊張で言葉が出てこなかったことを覚えています。それでも、彼の優しく、明るい人柄のおかげで、スムーズなコミュニケーションにつなげることができました。1時間目のWelcome Ceremonyの後は、クラスでの授業に参加してもらい、午後は各グループ仙台市内を案内しました。私たちのグループでは仙台駅方面で日本・宮城の文化を伝えることを目的に案内しました。日本のアニメ文化に興味があることが分かり、話が盛り上りました。たった1日の交流ではありましたが、共通言語としての英語を使い、教えあいながら、素晴らしい交流がきました。来年の春、今度は私が台湾を訪問します。英語はもちろん、様々なことを学んで成長し、新しい自分で交流してきたいと思います。

英語での交流を経験して

1年野中遼(高砂中)

2日間の交流を通して、充実した時間を過ごすことができました。最後の送別会では、私は司会としてみんなの前に立ちました。英語がきちんと伝わるのか不安でしたが、ジェスチャーや表情を交えて話すことで、自然と気持ちが通じ合えたことがとても嬉しく、印象に残っています。この経験を通して、「伝えようとする姿勢」の大切さを改めて実感しました。これからも、この姿勢を忘れずに英語を使った活動に積極的に挑戦していきたいです。

SS特別研修東京エレクトロン宮城工場企業見学 2025.10.28

1・2学年35名の生徒が東京エレクトロン宮城工場(大和町)を訪問し、半導体加工装置の開発施設の見学と研修設備(VR実習)の体験を行いました。また本校OBの社員の方々と交流し、学生生活についてや現在の研究開発など、社員としての視点から様々なお話をいただき、刺激を受けた一日となりました。

参加生徒の感想

今回、半導体製造装置の開発を行われている東京エレクトロン宮城へ工場見学に行きました。半導体の製造を行う室内には初めて見る機械が何台もありました。一見、専門の知識がなければ不可能な作業のように思われました。しかし、社員さんのお話を伺うと、会社全体が挑戦を後押しするような雰囲気なので、知らない分野でも失敗を恐れずに働くことができるということを知りました。この体験で、具体的な目標が無くとも、やりたいことにたくさん挑戦することで力が身につき、自ずと目標が見つかるという事を学びました。



1年 金倉愛莉 (加茂中)

2025イノベーションフェスタ開催 (2025.11.6)



11月6日(木)、200名を超える来場者に参加いただき、「令和7年度イノベーションフェスタ」を開催しました。当日午前中には、本校2年生理数科、普通科そして自然科学部化学班による95題のポスター発表が行われました。今年度は、県内外11校、OBの大学院生から38題のポスター発表が加わって盛大な発表会となり、会場のいたるところで活発な質疑応答が見られました。また、これまでの各研修参加者によるポスターや、日頃から連携させていただいている企業より提供いただいたポスターを加えると発表数は160題を超え、テーマも多岐にわたり充実した会となりました。

午後からは、2年生理数科19班、他校2班、国際交流として台湾の明道高校2班による英語の口頭発表、2年生普通科代表6班と6つの高校7班による日本語での口頭発表が、オンラインも利用しながら行われました。特に、理数科の生徒たちは、これまでの探究の成果をALTに見てもらい、英語で発表する力の自身の成長ぶりを確認することができたと思います。また、師範発表として、かがわ総文2025自然科学部門で最優秀賞を受賞した自然科学部地学班の発表が行われ、会場の多数の方々より質問が寄せられていました。1、2年生にとっては、今後の探究活動を極めていくモチベーションが高まったイノフェスとなつたことでしょう。

生徒の感想より

今回のイノベーションフェスタでは自身の探究を改めて新鮮な気持ちで見直すことができた。自分の班だけでは凝り固まっていた視点を見つめ直し、新たに考えを深めることができたので、これを探究の日や修学旅行までに生かして、より探究を深めていきたい。(2年普通科)

数値的なことばかりではなく、社会的なものから環境に対するものなど幅広い分野に関わるテーマの探究を知ることができました。このおかげで自分の視野が広がったことだと思います。また、自分自身も英語で探究することで修学旅行の前準備にもなつたし、外国の方々とのセッションを通じて自分たちの探究に足りないことを再認識することができました。(2年理数科)

わくわくサイエンス・第48回全国育樹祭記念行事

「時習の森グリーンアドベンチャー」(2025.10.26)

本行事は、宮城県仙台地方振興事務所林業振興部職員2名、本校の教員および夏の白神フィールドワークに参加した1年生12名が講師となり、県内の小学生24名を対象に自然観察や工作体験を通して、自然の魅力や科学の面白さを伝えるアウトリーチ活動として実施されました。当日はあいにくの雨天となり、予定していた仙台三高の学校林「時習の森」の巡査は中止となりましたが、屋内での活動に切り替えて実施されました。



科学の面白さを伝える

1年力石大地(南光台東中)

私はグリーンアドベンチャーに参加し、葉の種類の同定と木札トラップ作成、葉拓を作成する小学生をサポートしました。森林の役割について講義を聞いたあと、まずは葉の同定を行いました。形やふちの特徴から何の木の葉かを絞り込んでいく中で「これは似てるけど色が違う」と何度も図鑑を見返す小学生たちは、無意識に「探求」を行っていると感じました。次は、三高時習の森のヒノキを使い、木札ストラップの作成です。三高生は授業を始め、行事等で木に触れる機会が多くありますが、今回小学生にも木に触れもらい、普段経験する機会の少ない手触りやにおいを知ってもらえたのではないかと思います。最後の葉拓作りでは、葉に好きな色を塗れるわけですが、色を混ぜたり、重ね塗りしたり、どうしたらすきなものになるかなと私も一緒に悩みながら作りました。こういった体験を通して感じる、葉のにおいや手触り、色は、まさに理科、科学なのだと思っています。小学生が一生懸命に葉から木の種類を見つけたり、木材や葉を使って活動したりする姿を見ながら、この探求の積み重ねが、根拠を持って積極的に答えを見つけ、考察しようとすると探究の姿勢へつながっていくのだと感じました。私達三高生も小学生に科学の面白さを伝えることができ、良い学びになりました。

